

# 陶町歴史ロマン 15

## 1 2、交通網の整備

### (1)明治の頃の道路



陶を東西に走る中馬街道は尾張と信州飯田を結ぶ商いの道であるが、それ以外は村と村を結ぶ山里の道であり、幕末から流行りだした社寺巡礼の道（秋葉道など）でありました。

この頃の道は、ほとんどは歩きですので牛馬は1匹通るのがやっと、荷車を引いた牛馬などはとてもとても小道だったと思います。けもの道と言った方がいいかもしれません。

- ・中馬街道 吉良見～吹越～猿爪～水上～大川～乱曾～曾木
- ・岩村道 吹越～原～鶴岡～遠山～岩村
- ・阿妻道 阿妻～中の草～猿爪
- ・吉良見道 吉良見～富返り～留守が入り
- ・岐路道 中の草～水上龍王山～向田
- ・わらび道 水上市場平～川折
- ・田尻道 水上滝坂～田尻～川折
- ・小滝道 沢の尻～田代小滝
- ・田代道 猿爪～広瀬～田代
- ・小原道 大川～小原



大正3年建立の道祖神

## (2)現代に繋がる道路整備

### ・岩村新道（稲津への道が山越えから川沿いへ）

従来、瑞浪から岩村への道は小里から笹平を経て（山越え）田代・鶴岡・遠山を経由する道であったが、明治14年（1881年）小里から川折を経由して（川沿い）田代に入り山岡に至る新道の開削工事が始まった。この道路は明治18年に岩村新道として完成した。

この道路が開通したことにより瑞浪から猿爪への道は、新道途中の田代小滝（現在はダムにより水没）から猿爪川沿いに上がる道（通称：小滝道）が猿爪村への一般的な道となった。

現在は水上の馬渡橋（うまわたしばし）から猿爪川沿いに下る道（右の写真）に昔の面影をみることができるが、この道の小滝まで歩いたことのある私の記憶では、曲がりくねった川に沿って、しかも川縁の岩を避けながら通る細い道で乗合馬車（6人乗り）が通っていたとはとても信じられない。



曲がりくねった川に沿って、しかも川縁の岩を避けながら通る細い道で乗合馬車（6人乗り）が通っていたとはとても信じられない。

### ・中馬街道（名古屋まで陶磁器を運ぶ道）

明治になると、後に陶の御三家と呼ばれる山五（明治5年）、金中（明治18年）も創業を開始します。陶のみならず、明智・吉良見・原にも開窯する人が出て、中馬街道は焼き物の原料運搬、道具運搬、機械運搬、製品運搬、技術交流に大いに役立ちました。

この頃になると中馬街道は、信州伊那と名古屋を結ぶというよりは、瀬戸物街道とでもいうか東美濃と瀬戸・名古屋を結ぶ街道の意味合いが強くなりました。

明治23年には中馬街道も改修（拡幅工事、峠の掘り下げ工事など）され馬引きでなく大八車や馬車が通れるようになりました。

「曾根100年史」に明治41年の名古屋への荷出しの様子を「瑞浪まで鉄道は開通したが、猿爪から瑞浪への交通手段がなく（人力車はあった）道も狭くて陶磁器の運搬は、荷馬車ではあるが中馬街道で名古屋へ出るのが常であった。」と記されています。

昭和37年（1962年）には旧陶小学校（現在の陶幼稚園のある所に在った）のグラウンド・講堂が道路の拡幅工事のため削られている。

現在の国道363号線がほぼこの道にあたり、昭和38年から60年にかけて改修工事が行われ、363号としては名古屋から中津川まで全線開通した。



少々残念なのが、江戸時代の中馬街道は明智から信州の飯田へ向かっていたが、国道 363 号線は明智から中津川に向っていることである。昔のように飯田への道であった方が信州への玄関口・奥三河への玄関口として、陶にとっても明智にとっても何かと価値があると思うのは私だけでしょうか。

＜「歴史ロマン 中馬街道」別途監修＞

#### ・三濃街道（陶と瑞浪を結ぶ道）

（三濃は「みの」と読み、三河と美濃の合成地名で、旧愛知県東加茂郡旭村が主）

明治 34 年に稲津～猿爪～明智～三濃の三濃街道の改修工事が着工され、この工事は三期に渡り行われ、第三期の明治 41 年に川折～大川の七曲り工事が完成した。七曲り道路の開通により、小滝道は殆ど使われなくなってしまった。

この道路が現在の県道 20 号線（瑞浪・大野瀬線）で、現在でも陶町民が最も利用する道路である。大川十三塚交差点から明智までは国道 363 号と重複している。

昭和 8 年(1933 年)には、中村僊輔村長らの努力により猿爪地内の東町から陶町口まで約 1km の直線道路が開通している。猿爪の発展に伴い旧道が手狭になったことへの対応ですが、旧道に比べてアップダウンも少なく、しかも約 1km を直線で結ぶという画期的な道路でした。東町から広表までは田んぼで、そこからは学校や民家があったはずですが、この道路建設には幾多の障害（立ち退きなど）があったと思いますが、その説得力（政治力と言った方がいいかも？）はたいしたものですね。今では 2 車線が取れない狭い道路ですが、当時としては広い立派な道路でした。私は旧道を下の道と言って、新道を上の道と言っていた記憶があります。平坂方向から猿爪を見て上下を言っていたのです。東町方向からだと上下は逆になってしまいます。古くからある旧道沿いが本町、新しい直線沿いが新町である。

#### ・小原道（三河への道）

現在の国道 419 号線がこれにあたる。旧来は大変な山越え道で利用者が少なかったが、昭和 38 年から昭和 60 年にかけて



改修工事が行われ、更に平成 2 年には陶と小原の間はトンネルで結ばれた。これにより、トヨタ自動車を中心にして発展を続ける西三河への道として利用者も増え重要性を増している。陶在住者でもこの道を利用して毎日豊田方面まで通う人も何人かいる。

### (3) 鉄道の整備

#### 中央線の開通・瑞浪駅の誕生

明治 29 年（1896 年）に名古屋～多治見間の工事が開始され、明治 33 年に開通している。

明治 35 年（1902 年）には多治見～中津川間も開通し、この年に瑞浪駅も開通している。

中央線の全線開通は明治 44 年で名古屋～塩尻が結ばれた。

中央線の誘致には敗れた陶ですが（次回の歴史ロマン 中央線の敷設裏話参照）、中央線ができたことにより、それまで中馬街道を使っていた陶磁器製品の搬出、原材料の搬入などに瑞浪駅を使うように変化していきます。同時に道路も整備され牛馬による輸送から馬車による輸送に変化してゆきました。

また、寺河戸村は一面田んぼの農村地帯でしたが、瑞浪駅ができたことにより陶・明智を中心とした恵南地区の産業（陶磁器、製糸など）の集散地として飛躍的な発展を遂げました。